

特選 「わたしの作戦」

二本木小学校 鳥山 菜子

わたしは、好物を最後に残すくせがある。たまに、きらいなものといっしょに食べることもあるが、だいたい最後に食べているのは、好物だった。給食のときに、みんなは好きな食べ物を最初に食べるか、それとも最後に食べるかというところが気になった。クラスの友達に聞いてみると、最初に食べる子もいれば最後に食べる子、食べる時を気にしない子など、人それぞれだった。わたしは別に何気なく好物を最後に食べているわけではない。ちゃんとした理由がある。

わたしは昔から給食が大好きだ。一年生のころは、いつもおかわりをしていた。それでも足りなくて、家に帰ったらすぐに冷ぞう庫をあさっていた。そんなわたしを見て、お母さんは、少しあきれていたのを覚えている。大好きな給食の間がもっと長く続けばいいのになと思いつながらおいしく食べていた。

四年生のころ、あることに気づいた。わたしは、給食を食べ終わるのにかかる時間が短いということを。わたしはもっと長い時間給食を楽しみたいと思い、いくつか作戦を考え、実践してみた。作戦その一、少しずつ食べる。しかし、たえきれずに失敗。作戦その二、友達と話しながら食べる。友

達との話に夢中になり、かんじんの給食の味に集中できなかった。失敗。このように時間を長くさせる作戦は難しいと考えたわたしは、またまたあることに気付いた。好きなものを最後に食べれば、長く給食の味を楽しむことができるのではないかと。

そのことに気づいた日の給食には、好物中の大好物、魚の塩焼きがでた。思い立ったらすぐ実行。考えた作戦をさっそくためしてみることにした。

給食の時間になった。出てきたサラダやご飯、おかずをすべて食べ、残りは魚の塩焼きだけになった。はしで小分けにして、一かけらをはしではさんで口の中に入れた。少ししょっぱくて、いつもと変わらない味のはずなのに、何だかいつもよりおいしく、食べている時間が長く感じた。それからというもの、わたしはいつもこの作戦を実行している。実際、時間が長くなったわけではないのだが、なぜかこの方法で食べると、給食がいつもの何倍にも楽しく感じたから。

今でもこの作戦は使っている。でも、この作戦はだれにも教えなかった。まあ、教えてもだれもまねしようと思わないだろうが。今日も好きなものが入っていないかなと思いつながら、机にナフキンをしき、わたしは給食の時間を楽しんでいる。